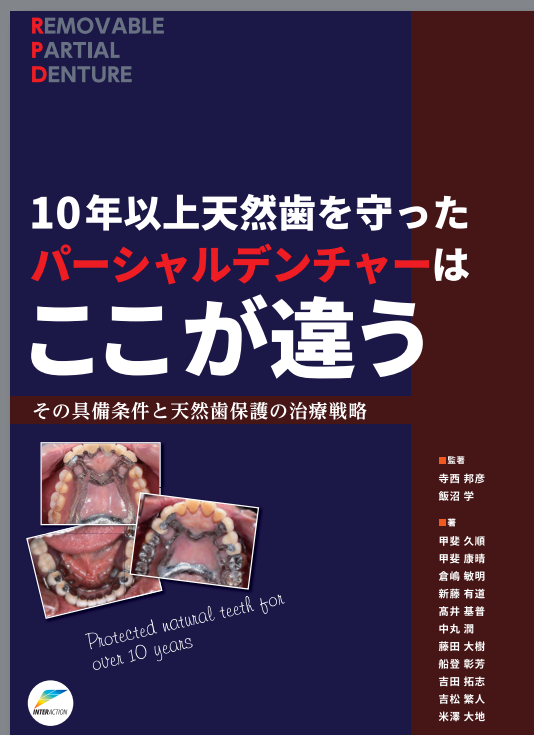


天然歯保護につながるパーシャルデンチャーのノウハウが
カタログ的にわかる 1冊

10年以上天然歯を守った パーシャルデンチャーは ここが違う

その具備条件と天然歯保護の治療戦略



- 監修 寺西 邦彦・飯沼 学
- 著 甲斐 久順・甲斐 康晴・倉嶋 敏明
 新藤 有道・高井 基普・中丸 潤
 藤田 大樹・船登 彰芳・吉田 拓志
 吉松 繁人・米澤 大地

- 「パーシャルデンチャーといえば寺西邦彦先生！」
 その寺西先生が、日々実践し、かつ若手歯科医師に指導してきた「天然歯保護に活かせるパーシャルデンチャー」の考えかたと製作法を一挙公開！
- 10年以上の経過がある 15 症例の設計例を掲載！
 なぜ天然歯を守ることができたのか？ そのノウハウと治療戦略が学べる！
- カタログ的に設計を引ける！参考にできる！
 ひと目でわかる「補綴設計とパーシャルデンチャーの設計イラスト」で、今すぐ設計に活かせる！

A4判 132 ページ
 ISBN 978-4-909066-11-4 C3047
 定価 (本体価格 9,400 円 + 税)

原理・原則を理解した 12名の臨床家による 天然歯を守る設計と治療戦略が カタログ的に学べる

Part 2

「10年以上経過するとどうなる？」率直な疑問に答えます！

エキスパートたちの治療戦略を
端的な文章で理解できます！

CASE 12 下顎前歯歯槽欠損症例

上下顎咬合前傾患者に対して、
上顎フルデンチャー、下顎パーシャルデンチャー
により咬合再構築を行った症例

義歯完成時の状態 (53歳) → 15年装着時の状態 (68歳)

本設計のポイント

- 自然な咬合環境であることから、**顎心**の位置を考慮し、
- 顎心**にはインディケイトリター

15年経過時の状態

- 咬合約5年後に上顎バーが破損した。破損したワイヤークラスプにて修理し、その後10年経過しているが、弊に問題はない。
- 人工歯の磨耗・咬合心設計や花弁が、思ったほど進行していないが、磨耗部には問題ないと思われる。
- 後磨耗部に咬合は認められないが、磨耗部にて磨耗部が磨耗が認められるため、磨耗部の劣化に努める。

初診時の口腔内状況

患者 52歳女性。上下顎の歯槽欠損と咬合の不調による咬合前傾を主訴に来院。上下顎前歯の骨欠損が著しい。特に上顎前歯と下顎前歯ブリッジの咬合が著重であり、上顎には不良なRPが装着されていることから、咬合調整が必要と判断。

本症例の設計

●パーシャルデンチャーの設計

●ポイント

適切なマウスプレプレレーションによる咬合環境の再構築

●リスク

1 不安定な義歯ほど残存歯にダメージをもたらす

【その対策】
適切な設計とそれをしっかりと具現化したマウスプレプレレーションを施す。さらに精度の高いキャストフレームを装着する。

2 歯肉疾患の再発・悪化

【その対策】
初期発見としての歯肉治療を徹底する。

3 人工歯の咬耗・摩耗による対咬関係の不調

【その対策】
メタルオールテラールの応用 (今回は上顎が義歯のため人工歯のままとした)。

15年経過した今、その戦略は功を奏したか

右側リテーナー(リバー)が破損し、修理したものの、歯肉腫瘍などももう少し積極的に考えたほうがよかつたのでは？とプレプレレーションが功を奏し、15年経過も歯肉の安定は十分認められている。歯肉腫瘍の再発はないものの、歯肉腫瘍が見られる。歯肉腫瘍などももう少し積極的に考えたほうがよかつたのでは？とプレプレレーションが功を奏し、15年経過も歯肉の安定は十分認められている。歯肉腫瘍の再発はないものの、歯肉腫瘍が見られる。

**12名の
臨床家の
設計を掲載**

- 中丸 潤
倉嶋 敏明
吉田 拓志
甲斐 久順
新藤 有通
甲斐 康晴
米澤 大地
船登 彰芳
藤田 大樹
飯沼 学
高井 基普
吉松 繁人
- (掲載順)

**明瞭簡潔なイラストでわかる！
補綴設計&パーシャルデンチャーの設計を掲載！**

ワイヤークラスプ、ワイヤー、骨隆起、ガイドブレン、近心レスト(ダウエルレスト)、ディンプル(ボールクラスプ用)、近心レスト(ダウエルレスト)、レスト(ダウエルレスト)、インプラント 上部構造、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン、ボールクラスプ、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン、ワイヤークラスプ、ワイヤー、骨隆起、ガイドブレン、近心レスト(ダウエルレスト)、ディンプル(ボールクラスプ用)、近心レスト(ダウエルレスト)、レスト(ダウエルレスト)、インプラント 上部構造、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン、ボールクラスプ、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン、ワイヤークラスプ、ワイヤー、骨隆起、ガイドブレン、近心レスト(ダウエルレスト)、ディンプル(ボールクラスプ用)、近心レスト(ダウエルレスト)、レスト(ダウエルレスト)、インプラント 上部構造、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン、ボールクラスプ、シンギュラムレスト、近心レスト、キーアンドキーウェイ、遠心レスト、近心レスト、ガイドブレン

10年以上天然歯を守った パーシャルデンチャーは

ここが違う

その具備条件と天然歯保護の治療戦略

CONTENTS

Part 1 10年以上天然歯を守るパーシャルデンチャーの 普遍的原則と臨床の知恵

寺西 邦彦

- Chapter 1** これからリムーバブルパーシャルデンチャー臨床に
取り組む君たちへ
- 1・欠損補綴の目的
 - 2・リムーバブルパーシャルデンチャーが回避される
傾向にある理由
- Chapter 2** 残存歯を少なくとも10年もたせる
リムーバブルパーシャルデンチャーの具備条件
- 1・予後のよい症例は何か違う？
 - 2・良好な長期経過をたどる症例の共通点
- Chapter 3** リムーバブルパーシャルデンチャーにおける3要素と
優先順位
- 1・支持・把持・維持の優先順位
 - 2・3要素を臨床で具現化するためには

- Chapter 4** 欠損様式別オプション選択のガイドライン
- 1・片側性欠損の治療オプション
 - 2・両側性欠損の治療オプション
 - 3・前方遊離端欠損の治療オプション
 - 4・犬歯を含む片側遊離端欠損の治療オプション
 - 5・少数歯現存の治療オプション
- Chapter 5** リムーバブルパーシャルデンチャーの治療の流れ
- 1・基本設計
 - 2・マウスプレパレーション
 - 3・キャストフレームの製作
 - 4・咬合採得～最終義歯装着

Part 2 臨床例から学ぶ 10年以上天然歯を守るパーシャルデンチャーの治療戦略

- CASE 01** 上下顎咬合崩壊患者に対して、上顎パーシャルデンチャー、下顎クラウンブリッジにより咬合再構成を行った症例
中丸 潤
- CASE 02** 2級傾向の強い重度歯周病患者の咬合崩壊症例に対して、RPDフレームに配慮し、上下顎パーシャルデンチャーにより咬合再建を行った症例
倉嶋 敏明
- CASE 03** 少数歯残存咬合崩壊症例に対して、上顎パーシャルデンチャー、下顎オーバーデンチャーにより咬合再建、咀嚼機能回復を行った症例
倉嶋 敏明
- CASE 04** 病的歯牙移動を伴った咬合崩壊患者に対して、歯周補綴とパーシャルデンチャーにて対処した症例
吉田 拓志
- CASE 05** 上下顎部分歯欠損患者に対して、上顎パーシャルデンチャー、下顎インプラントにより欠損修復補綴を行った症例
甲斐 久順
- CASE 06** ブラキシズムを伴う患者に対して、上顎パーシャルデンチャー、下顎インプラント補綴にて咬合再構成を行った症例
新藤 有道
- CASE 07** 少数歯残存症例に対して、マグネットデンチャーとクラスデンチャーで対応した症例
甲斐 康晴
- CASE 08** 白歯部咬合支持欠損による2歯冠補綴装置破損に起因する審美障害に対して、パーシャルデンチャーおよびインプラントを用いて審美的改善を行った症例
米澤 大地
- CASE 09** 上顎の片側に固定式インプラント上部構造を装着し、反対側の天然歯補綴物とパーシャルデンチャーで強固な二次固定を図った症例
船登 彰芳
- CASE 10** 重度歯周疾患症例に対して、上顎に歯周外科・インプラント治療を行い遊離端欠損を回避したパーシャルデンチャーを装着した症例
船登 彰芳
- CASE 11** 上顎右側大白歯2本、左側小白歯2本の欠損に対して、リムーバブルパーシャルデンチャーを用いた症例
藤田 大樹
- CASE 12** 上下顎咬合崩壊患者に対して、上顎フルデンチャー、下顎パーシャルデンチャーにより咬合再構成を行った症例
飯沼 学
- CASE 13** エナメル上皮腫による下顎前歯部欠損症例
高井 基普
- CASE 14** 鉤歯への負荷を軽減するためのマウスプレパレーションに熟慮した症例
高井 基普
- CASE 15** 下顎両側遊離端欠損の低位咬合の患者に対して、4本のインプラントを用いISRPDを行った症例
吉松 繁人

注文票

品名	税込価格	冊数
10年以上天然歯を守ったパーシャルデンチャーはここが違う その具備条件と天然歯保護の治療戦略	10,152 円	



インターアクション株式会社

東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202

TEL 070-6563-4151 FAX 042-290-2927

http://interaction.jp